

令和5年10月16日
国立大学法人長岡技術科学大学
学長選考・監察会議

学長の業務執行の状況の検証結果について

国立大学法人長岡技術科学大学学長選考・監察会議規則第4条第3項に規定する学長の業務執行の状況の検証を行いましたので、その結果を公表します。

1. 検証のプロセス

令和5年度第2回学長選考・監察会議（令和5年9月19日開催）において、以下の資料、学長のプレゼンテーション及び学長選考会議委員との質疑応答により検証した。

- ・学長選考基準（平成27年1月27日付け学長選考会議決定）
- ・学長選考時における所信（令和2年8月28日学長選考会議公示）
- ・令和4年度の計画に係る中期目標・中期計画等進捗状況に関する自己評価書
- ・監事の監査結果報告書（令和4事業年度監査報告書）
- ・令和4年度の業務執行状況の説明資料（プレゼンテーション資料）

なお、検証にあたり、監事から令和4年度の監査業務における意見を聴取した。

2. 検証結果について

令和4年度における学長の業務執行の状況については、適切に執行されていると判断する。

令和4年度は、第四期中期目標・中期計画期間の初年度で、これまでの実績を踏まえ、新たに7つのアクションプランからなる将来ビジョンを策定の上、突然のパンデミックから収束に向けた大きな流れの中で着実に大学を運営している。

教育組織の改革等を積極的に推進し、さらに次の時代に向け、DXとGXを核にし、社会実装を目標に置いた多数のプロジェクトに採択されるなど、外部資金・産学連携等の収入を大幅に拡大させたことは高く評価できる。

学内外の多くのステークホルダーとの議論に基づき、長期的な大学のあるべき姿を検討しており、海外、地域、産業界、高専、他大学、研究機関等、幅広く多様な関係者との協業プラットフォームを構築していこうとする方向性も加速的に推進すべき取組みとして評価できる。

今後、計画の実行を担う多様な人材の確保に一層尽力していただきたい。そのためにも、大学の掲げるミッションやそれに向けた優れた取組みを学外の関係者に広くPRし、その魅力を十分理解してもらおう活動も極めて大事である。

教育研究、業務運営、財務内容等、全体的に大きな変革が見られたが、今後は、変革の方向性が正しいかどうかの不断の検証と目に見える形での成果が必要となってくる。

以上